

第25期事業報告書

(平成17年4月1日から平成18年3月31日まで)



不二サッシ株式会社

株主の皆様へ



株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご支援ご愛顧を賜り、誠に有り難うございます。

私ども不二サッシは、昭和5年の創業以来、アルミサッシのパイオニアとして、常にビル・住宅における快適な環境づくりを提案するとともに、アルミサッシを核とした建材事業から、更に、形材外販事業・環境事業・新規事業等非サッシ事業分野への多角化を推進しております。

バブル経済崩壊後の不況が続いたなか、当社は業績悪化を余儀なくされてきましたが、平成14年度において漸く黒字転換を果たし、当期まで4期連続経常黒字を計上することができました。

しかしながら、平成17年度において、固定資産の減損に係る会計基準を適用し、減損損失を計上したことから、多額の当期純損失計上となりました。

これに伴い生じた資本の毀損を補填するため、140億円の優先株の発行と20億円の転換社債型新株予約権付社債の発行により財務の健全化を図り、一段と強固な経営基盤の構築を目指しております。このたび、当社の第25期（平成17年4月1日から平成18年3月31日まで）が終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

当期の概況

当期におけるわが国経済は、原油価格や原材料価格の上昇など不安定要因を抱えながらも企業収益の改善や設備投資の拡大、個人消費の増加などを背景に緩やかな回復基調を維持し順調に推移してまいりました。

アルミ建材業界におきましては、アルミ地金等原材料の高騰に加えて、特に、当社の主力事業であるビル建材品市場においては需要低迷下における企業間競争の激化により受注価格が低下するという厳しい状況が続いております。

このような厳しい環境に対処すべく当社は、新商品などの販売促進に努めるとともに、形材外販事業や環境事業、ユニットハウス・防災トイレなどを販売する新規事業等非サッシ事業分野の拡大に注力する一方、契約適正化の推進ならびに製造原価・人件費等のコストダウンに全社を挙げて取り組んでまいりました。更に、グループ各社におきましても、それぞれ業績向上に懸命の努力を重ねてまいりました。

また、当社は、不二サッシグループの親会社として連結子法人等36社を含めたグループ全体の最適化と効率化を推進しておりますが、その一環として、平成17年4月1日付で、生産子会社の生産マップを再構築し、グループ全体での原価低減を図り利益を確保するとともに効率的な形材販売体制の確立のため、関西不二サッシ株式会社の事業の一部（アル

ミニウム形材の押出生産ならびに販売事業)を九州不二サッシ株式会社へ営業譲渡により移管いたしました。また、平成18年1月1日付で、当社の形材営業部門を九州不二サッシ株式会社に営業譲渡し、形材営業を一本化いたしました。

このように当社は、収益の確保と強固な経営基盤の構築に向けて懸命の努力をしておりますが、下期に入って主原料であるアルミ地金価格が再度急騰するなど、顕著な収益悪化の兆候が見られ始めたことから、今会計年度で固定資産の減損に係る会計基準を適用し、広い範囲の資産の洗い直しを実施することにいたしました。また、これに伴い生じた資本の毀損を補填するために、140億円の優先株の発行と20億円の転換社債型新株予約権付社債の発行をいたしました。更に、6月の定時株主総会で減資と剰余金の取崩しを決議しております。これにより懸案である繰越損失の一掃に目途をつけるとともに、一連の資本政策により財務の健全化を図っております。

当期の業績は、連結売上高では厳しい市場環境や受注競争激化の影響を受けてビル用建材品等が減少したことなどから、前期と比べて1.9%減の1,205億6千4百万円となりました。一方、損益面では売上減や販売価格の下落、更にアルミ地金等原材料価格の高騰によるマイナスを全グループを挙げたコストリダクションおよび利益確保に重点をおいた営業活動への取り組みによって補い、連結経常利益は5億7千4百万円の黒字を4期

連続で確保することができたものの、前期に比べ13億2千9百万円の減少となりました。また、固定資産の減損に係る会計基準を適用することによって発生した特別損失252億6千3百万円を計上したことにより、当期連結純損益は187億2千6百万円損失の止むなきに至りました。

対処すべき課題

今後のわが国経済の見通しは、原油をはじめ原材料価格の高騰が引き続き企業収益を圧迫するなどの懸念要因も見られますが、民需主導の景気回復が順調に継続、拡大するものと期待されております。

アルミ建材業界におきましては、アルミ地金等原材料の高騰や需要低迷が続くものと予想され、特に、当社の主力事業であるビル用建材品市場においては、企業間の競争激化による受注価格の低迷の継続が懸念されるなど、依然として厳しい経営環境が続くものと思われま。

このような状況の中で当社グループは、受注価格の低下に歯止めをかける契約適正化の推進や更なる合理化・総コストの削減などを図る一方、引き続き顧客ニーズ・市場動向に合わせた新商品の開発による販売促進、サッシ外商品やリフォーム事業への取り組み強化、環境事業・形材外販事業・新規事業等非サッシ事業分野の拡大を図るなど、売上増強・収益向上を引き続き強力に推進してまい

ります。また、事業構造の見直し、グループの再編を行い、事業収益性の向上を強力に推し進めるべく、「中期経営4ヵ年計画(平成18年度～21年度)」を新たに作成し、健全な財務体質の確立と事業構造の変革、経営管理体制の変革に向けて懸命の努力を傾注してまいり所存であります。

また、前述の通り減損処理の実施とそれに伴う資本の毀損を補填するための優先株と転換社債型新株予約権付社債の発行、更に、6月の定時株主総会で減資と剰余金の取崩しを決議し、これにより懸案である繰越損失の一掃に目途をつけるとともに、これら一連の資本政策により財務体質の健全化を図っております。

なお、経済産業省から平成18年3月28日付、産業活力再生特別措置法に基づく「事業の再構築計画」の認定を受けました。これに則り、事業の再構築による事業の選択と集中を進め、事業基盤の強化を図り市場開拓を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

取締役社長

嵯峨明

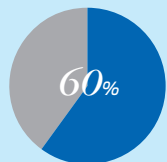
ビル建材事業

BUILDING

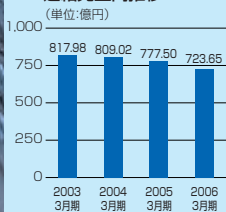
● 主要製品名

カーテンウォール、ビル用サッシ・ドア、中低層用サッシ・ドア、改装用サッシ等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

ビル用建材品の市場におきましては、企業の設備投資意欲を背景に、非木造建築物着工床面積は増加基調にあるものの、工場・倉庫等建築物のアルミサッシ装着率が低いことなどから、ビル用建材品の需要は依然として低迷状態のまま推移いたしました。

このような市場環境のもと、利益確保に重点を置いた営業活動に注力するとともに、取引先に対して原材料価格の高騰によるコストアップ相当分の値上げ要請もいたしました。しかしながら、需要低迷下における受注競争激化の影響などが

ら販売価格が低下し、当事業部門の連結売上高は前期に比べ6.9%減の723億6千5百万円となりました。連結営業利益は前期に比べ8億5百万円減の23億6千8百万円となりました。



① 自然換気機能と防犯性能を同時に実現した「FD-70N採風ドア」

ビル・マンション用のアルミ枠ドアに、自然換気機能を組み込んだ「FD-70N採風ドア」を発売しました。「FD-70N採風ドア」は、従来の採風ドアでは両立が難しかった自然換気機能と防犯性能という相反する機能を同時に実現しました。マンションなどで自然の風を取り入れたい夏季の就寝時やちょっとした外出時に、昼夜を問わず安心してお使いいただけます。さらに換気ユニットの採風口には防虫用の網戸ネットを標準設定しているため、ドアの全面を覆う従来型の網戸を取り付ける必要もありません。

② 業界初、樹脂とアルミの複合枠に36mmガラス溝巾を採用した「Super70H」

05年秋に発売のSuper70シリーズに省エネ（断熱性・CO₂削減）・快適性（結露抑制・ハイサッシ対応）をより一層高めた次世代型の引き違い窓「Super70H」を追加設定し発売しました。

この商品は、アルミサッシの枠見込みとしては最も基本的な70mmの枠見込みでありながら、業界で初めて枠に熱伝導率の低い特殊ポリウレタン樹脂とアルミの複合素材を採用し、さらに断熱性能をより高める空気層12mm複層ガラスに対応可能な36mmのガラス溝幅の障子を整備しました。

③ グッドデザイン賞を受賞したジェイナスシリーズ（アルミ木材複合）第二弾「ジェイナスウィンドウ」

03年夏に発売を開始し「04年度グッドデザイン賞」を受賞した「ジェイナス」シリーズの第二弾としてアルミ木材複合サッシ（商品名：ジェイナスウィンドウ）を発売しました。

ジェイナスウィンドウは内部の見え掛かり部には、暖かみを感じさせる天然木集成材を使用し、外部は耐久性に優れたアルミ型材を使用しているため、安定した高いサッシ性能と、内部の意匠性を同時に実現できる複合サッシです。

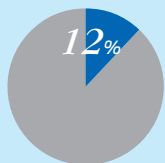
※ジェイナス：ローマ神話の神（Janus〈ヤヌス〉）の英語読みで前と後ろの顔を持つ双面の神

住宅建材事業 HOUSING

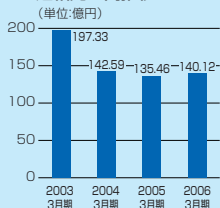
● 主要製品名

住宅用サッシ、玄関引戸・ドア、室内建具、エクステリア製品等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



① 横引きアルミシャッター「シエスタV」

横スライド操作で楽に開閉できる「シエスタV」は、従来型シャッターのような開閉の際の背伸びや屈む動作の必要がなく、子供から高齢者まで安心してお使いいただける商品です。また、左右にある収納部はコンパクトですので、従来のシャッターボックスや雨戸の戸袋スペースが必要がないのでリフォームに最適です。さらに、2004年度グッドデザイン賞にも選ばれたスリム&シャープなデザインは、モダン系住宅にもお勧めです。

② アルミ樹脂複合防犯採風ドア「ウィンリッシュSP」

防犯性を飛躍的に向上させた自然換気機構付きドア「ウィンリッシュS」として昨年発売し、ビル・マンション用にも展開をした防犯採風ドアに、アルミ樹脂複合の高断熱タイプ「ウィンリッシュSP」を追加発売いたしました。このドアは内部を樹脂で覆った複合構造で、断熱・防露性に優れております。また、今年3月にその高い防犯性能が評価され、全国防犯協会連合会の「防犯性能の高い防犯部品目録」に掲載されております。

③ インテリア断熱サッシ「アルブラクラスK3&K4」

アルブラクラスは、耐候性や強度に優れたアルミと、熱伝導率の低い樹脂を組み合わせたアルミ樹脂複合構造サッシです。

アルブラクラスK3は、寒冷地での使用にも適したK3仕様（ $K \leq 3.0 \text{ kcal/m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{°C}$ 、H-3等級）の性能を確保し、アルブラクラスK4は、業界初のK4仕様（ $K \leq 3.5 \text{ kcal/m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{°C}$ 、H-2）とすることでローコスト化を実現しつつ、十分な性能を確保。

どちらも枠見込み80mm、ガラス溝幅26mmとしたほか、セキュリティ性の向上、ユニバーサルデザイン化を図っています。

市場環境と業績

住宅用建材品の市場におきましては、新設住宅着工戸数が分譲住宅を中心に堅調に増加しているものの、持家着工の減少などにより住宅用建材品の需要は減少に転じたまま推移いたしました。

このような市場環境のもと、新商品の販売促進に努めるとともに、オリジナル商品ならびに新日軽株式会社に生産委託している一般住宅用サッシ等の販売拡大を図るなど、売上増強に努めてまいりました。

その結果、当事業部門の連結売上高は前期比3.4%増の140億1千2

百万円となりました。一方、連結営業利益は販売競争激化の影響を受け、前期に比べ1億7千1百万円減の3億2千4百万円となりました。

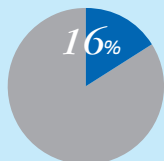
形材外販事業

MATERIAL

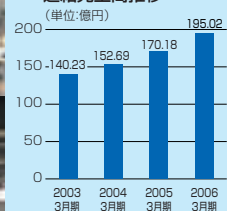
● 主要製品名

アルミ形材、アルミ精密加工品

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

形材外販事業におきましては、プレハブ住宅向け形材、手すり・面格子、簡易間仕切、エクステリア材等の建材関連市場向け形材の販売促進を図る一方、仮設分野でのアルミ化、足場材、高速道路用透光板や車両用部材等の販売拡大に努めてまいりました。

また、アルミの特徴である美観・軽量・加工性等を活かした「アルミ精密加工品事業」などにも積極的に取り組み新規需要先に対する開発営業力の強化を図っております。

こうした販売拡大努力により当事業部門の連結売上高は前期比14.6%増の195億2百万円となりましたが、連結営業損益においては競争激化による販売価格の低下やアルミ地金価格の高騰などから、前期に比べ6億6千5百万円減の2億1千7百万円の損失となりました。

当社は不二サッシグループ全体の再編を通じて、経営資源の選択と集中を推進しておりますが、その一環として非サッシ部門の拡大に力を注いでおります。特に、形材外販事業分野のアルミ加工品・アルミ精密加工品は、自動車から家電、事務機、半導体等の各種部品として汎用性の高い製品であり、成長の可能性を十分にもっております。

これら形材外販事業は当社グループの九州不二サッシ株式会社が中核となって事業を展開しておりますが、平成17年度は以下のような政策を実施し、更なる技術力・営業力の向上を目指しております。

- 平成17年4月1日付 営業譲渡により、関西不二サッシ株式会社の事業の一部（アルミニウムの形材押出生産ならびに販売事業）を九州不二サッシ株式会社へ移管いたしました。
- 平成18年1月1日付 営業譲渡により、当社の形材営業部門を九州不二サッシ株式会社へ移管し、形材営業を一本化したしました。

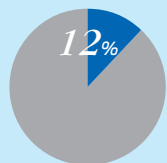
その他事業

OTHERS

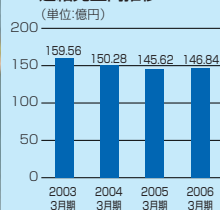
● 主要製品名

産業廃棄物処理プラント、産業廃棄物処理、運送、アルミ精密加工品、各種金属の表面処理、不動産事業等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



① 民需向 混練機「エフミキサー」

民需向けの灰処理装置として、従来型の自治体向け混練機に加え安価なエフミキサーを開発し、実績の第一号を納入することができました。



(未使用時)



(使用時)

② 粉じん防止キレート剤「アルサイトLD」

飛灰処理用キレート剤に粉じんの飛散防止効果を付加した「アルサイトLD」が自治体で採用されました。この粉じん防止キレート剤を使用することで、工場内や処理飛灰の搬出時に粉じんの発生を抑制し作業環境の改善を図ることができます。



市場環境と業績

当事業は、社会的に期待されるエコロジープジネスである「環境事業」・「産業廃棄物処理業」などから構成されております。

非サッシ事業分野の中心である「環境事業」は、政府の廃棄物関係予算が大幅な減額になるなど厳しい市場環境のなか、都市ごみ焼却飛灰処理設備やリサイクル設備、アルサイト等薬剤類販売の受注に注力する一方、新規参入炉メーカーに対する開発営業や民需および下水処理・産業廃棄物等関連市場の開拓を推進するなど、受注拡大に努めてまいりました。

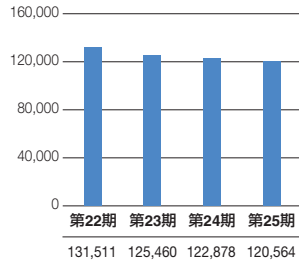
また、「産業廃棄物処理業」は、産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分に至る一環処理を主体とした受注に加え、「ダイオキシン処理事業」、「土壌汚染処理コンサルティング業」や「廃蛍光管リサイクル処理業」への進出を図るなど事業拡大に努めてまいりました。

その結果、当事業部門の連結売上高は前期比0.8%増の146億8千4百万円となりました。連結営業利益は前期に比べ3千5百万円増の8億3千7百万円となりました。

財務ハイライト (連結)

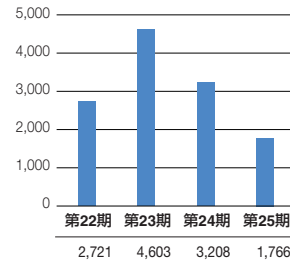
売上高

(単位：百万円)



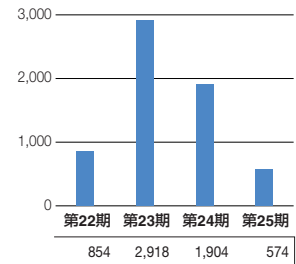
営業損益

(単位：百万円)



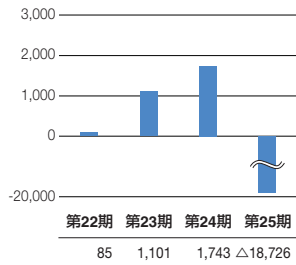
経常損益

(単位：百万円)



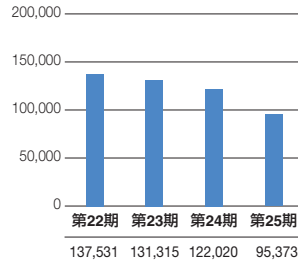
当期純損益

(単位：百万円)



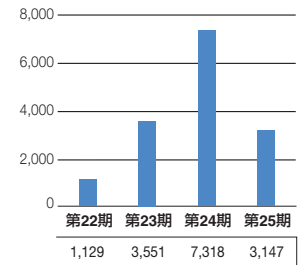
総資産

(単位：百万円)



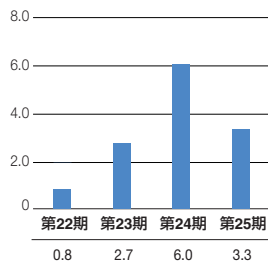
株主資本

(単位：百万円)



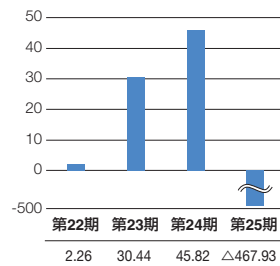
株主資本比率

(単位：%)



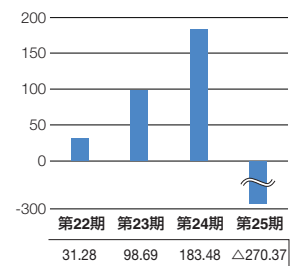
1株当たり当期純損益

(単位：円)



1株当たり株主資本

(単位：円)



連結決算の概要

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成18年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成17年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	52,929	53,248
現金及び預金	8,153	7,700
受取手形及び売掛金	26,745	26,639
たな卸資産	16,573	17,762
繰延税金資産	71	82
その他	2,146	1,752
貸倒引当金	△ 760	△ 688
固定資産	42,444	68,771
有形固定資産	34,187	61,035
建物及び構築物	11,631	13,704
機械装置及び運搬具	3,937	6,590
土地	16,722	39,156
その他	1,896	1,583
無形固定資産	374	504
投資その他の資産	7,881	7,231
投資有価証券	5,169	4,770
長期貸付金	344	407
繰延税金資産	377	70
その他	2,593	2,844
貸倒引当金	△ 604	△ 861
資産合計	95,373	122,020

科目	当連結会計年度 (平成18年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成17年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	71,656	90,192
支払手形及び買掛金	24,283	23,058
短期借入金	39,599	57,861
未払法人税等	302	654
前受金	3,689	4,613
賞与引当金	551	570
工事損失引当金	115	71
その他	3,114	3,361
固定負債	20,346	24,291
社債	20	35
新株予約権付社債	2,000	—
長期借入金	6,680	8,713
繰延税金負債	839	1,056
再評価に係る繰延税金負債	584	5,955
退職給付引当金	8,512	7,505
役員退職慰労引当金	237	256
連結調整勘定	66	112
その他	1,405	656
負債合計	92,003	114,484
少数株主持分		
少数株主持分	223	217
資本の部		
資本金	15,678	8,678
資本剰余金	7,022	2,319
利益剰余金	△ 21,875	△ 12,465
土地再評価差額金	1,919	9,218
その他有価証券評価差額金	1,219	517
為替換算調整勘定	△ 811	△ 908
自己株式	△ 4	△ 41
資本合計	3,147	7,318
負債、少数株主持分及び資本合計	95,373	122,020

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
売上高	120,564	122,878
売上原価	102,682	102,274
売上総利益	17,881	20,603
販売費及び一般管理費	16,115	17,394
営業利益	1,766	3,208
営業外収益	553	640
受取利息	45	46
受取配当金	72	114
連結調整勘定償却額	59	58
持分法による投資利益	6	6
保険配当金	126	124
その他	242	288
営業外費用	1,744	1,944
支払利息	1,508	1,616
手形売却損	135	154
その他	100	173
経常利益	574	1,904
特別利益	1,069	4,874
投資有価証券売却益	997	506
厚生年金基金解散益	—	4,350
その他	72	18
特別損失	26,759	3,363
固定資産売却除却損	679	669
たな卸資産除却損	—	2,398
減損損失	25,263	—
その他	816	295
税金等調整前当期純利益	△ 25,114	3,415
法人税、住民税及び事業税	293	725
法人税等調整額	△ 6,666	914
少数株主利益	△ 15	32
当期純利益	△ 18,726	1,743

連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	2,319	8,725
資本準備金期首残高	2,319	8,725
資本剰余金増加高	7,022	2,319
株式交換による増加高	—	2,319
自己株式処分差益	22	—
優先株発行による増加高	7,000	—
資本剰余金減少高	2,319	8,725
欠損填補のための取崩額	2,319	8,725
資本剰余金期末残高	7,022	2,319
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	△ 12,465	△ 22,933
欠損金期首残高	12,465	22,933
利益剰余金増加高	9,328	10,473
当期純利益	—	1,743
資本剰余金取崩による増加高	2,319	8,725
土地再評価差額金取崩額	7,009	4
利益剰余金減少高	18,739	5
当期純損失	18,726	—
役員賞与	13	5
(うち監査役賞与)	(—)	(—)
利益剰余金期末残高	△ 21,875	△ 12,465

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,847	5,657
投資活動によるキャッシュ・フロー	747	△ 503
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,365	△ 5,033
現金及び現金同等物に 係る換算差額	35	△ 7
現金及び現金同等物の増加額	265	112
現金及び現金同等物の期首残高	7,286	7,174
現金及び現金同等物の期末残高	7,552	7,286

単体決算の概要

貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期 (平成18年3月31日現在)	前期 (平成17年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	30,965	32,630
現金及び預金	4,030	3,004
受取手形	3,358	4,606
売掛金	10,530	10,615
たな卸資産	11,150	12,333
その他	2,720	2,708
貸倒引当金	△ 827	△ 637
固定資産	36,305	61,720
有形固定資産	21,137	44,370
建物	7,159	8,971
機械装置	1,338	3,063
土地	11,364	31,131
その他	1,275	1,204
無形固定資産	136	215
投資その他の資産	15,031	17,134
投資有価証券	13,621	15,314
その他	5,919	6,502
投資損失引当金	△ 1,646	△ 2,396
貸倒引当金	△ 2,863	△ 2,285
資産合計	67,270	94,351
負債の部		
流動負債	52,439	71,005
支払手形	10,789	9,923
買掛金	7,375	7,157
短期借入金	29,130	47,339
前受金	2,985	4,265
その他	2,158	2,318
固定負債	12,901	16,491
新株予約権付社債	2,000	—
長期借入金	4,860	6,688
再評価に係る繰延税金負債	—	5,352
退職給付引当金	4,231	3,559
その他	1,810	890
負債合計	65,341	87,496
資本の部		
資本金	15,678	8,678
資本剰余金	7,000	2,319
利益剰余金	△ 21,777	△ 12,403
当期末処理損失	21,777	12,403
土地再評価差額金	—	7,883
その他有価証券評価差額金	1,032	380
自己株式	△ 4	△ 2
資本合計	1,929	6,855
負債及び資本合計	67,270	94,351

損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)	前期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	79,983	80,995
売上高	79,983	80,995
営業費用	78,707	78,365
売上原価	69,065	67,691
販売費及び一般管理費	9,642	10,674
営業利益	1,275	2,630
営業外損益の部		
営業外収益	829	828
営業外費用	1,556	1,816
経常利益	548	1,642
特別損益の部		
特別利益	955	4,261
特別損失	26,565	4,391
税引前当期純利益	△ 25,061	1,512
法人税、住民税及び事業税	△ 131	75
法人税等調整額	△ 5,640	—
当期純利益	△ 19,289	1,437
前期繰越損失	10,084	13,840
再評価差額金取崩額	7,596	—
当期末処理損失	21,777	12,403

損失処理

(単位：百万円)

科目	当期 (平成18年3月期)	前期 (平成17年3月期)
当期末処理損失	21,777	12,403
これを次のとおり処理いたします。		
資本準備金取崩額	7,000	2,319
次期繰越損失	14,777	10,084

日海不二サッシ株式会社

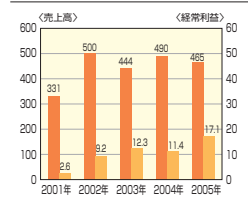
Nikkai Fujisash Co., Ltd.

本社：石川県金沢市観音堂町へ41-4
 創立：昭和33年（1958年）8月
 代表者：代表取締役社長 田中秀坪
 従業員：217名
 資本金：4億7,000万円
 売上高：46億円
 事業内容：アルミサッシの製造、販売



- ・日海不二サッシ（株）は業界一の品質と高い生産性を目指しております。
- ・日海不二サッシ（株）は北陸地区での数少ない製販一体企業の強みを生かし、同地区でのシェア拡大を図っております。

売上高・経常利益の推移（単位：千万円）



クリーンBOX

日海不二サッシ（株）の前身である日海工業（株）は、1958年（昭和33年）8月にスチールサッシメーカーとして、金沢市観音堂町に設立されました。

1963年（昭和38年）9月、不二サッシ工業（株）の経営・技術指導を受け、アルミサッシの製造・販売を開始し、1980年（昭和55年）1月日本工業規格（JIS）の認定を取得し、その後、各種設備投資を含め2000年（平成12年）1月には効率的な新工場を建設するなど、生産技術の向上やアルミサッシの品質面での充実を図ってまいりました。

日海工業（株）は2002年（平成14年）6月に、北陸不二サッシ販売（株）を合併して、日海不二サッシ（株）と社名変更し、製造・販売の一環メーカーとしての強みを一層強化いたしました。

なお、2005年（平成17年）4月にはISO14001の認証を取得しましたが、それを契機に、ゴミの減量・リサイクル化に積極的に取り組み、金沢市より優良廃棄物排出事業所として特別表彰を受けました。

また、日海不二サッシ（株）は早くから、定年退職者の処遇制度見直し改善に着手し、2002年（平成14年）7月より、定年退職者全員の65歳までの再雇用制度を導入し、また、高齢者の新規受入については、エイジフリー化を促進、求人の際の年齢制限を原則撤廃しました。

このような高齢者雇用安定法に対する日海不二サッシ（株）の積極的な取組みが評価され、東京都で開催された2005年度（平成17年度）の高齢者雇用開発コンテスト全国大会に優良企業として表彰を受けております。

このように、日海不二サッシ（株）は、今後とも、環境問題に配慮し、また、少子高齢化社会に柔軟に対応するなど、企業としての社会的責任を果たすために、地道な活動を推進してまいります。2006年（平成18年）度はより効率的な自動精密加工機の導入等により、一層の生産性の向上を図り、不二サッシグループの発展に貢献したいと考えております。

不二サッシグループは非サッシ事業の拡大策のひとつとして、下記商品を市場に展開しております。2006年度には、災害用非常時トイレ(カンタン君)を新規に発売を開始、少しでも社会貢献につとめつつ、携帯電話用収納箱や地上デジタル放送局舎収納箱(総称シェルター)も今年度より手掛け、非サッシ事業の拡大に努めてまいります。

非常時対応型折りたたみ式トイレ
商品名 カンタン君



通常は平たく畳まれており、公共空間を有効に利用出来る省スペース設計。

災害時には特別の技術や工具を必要とせず、短時間で組み上げられ、女性の方をはじめ体の不自由な方も安心してお使い頂ける多人数対応型のトイレです。

夜も安心してご利用頂けるよう太陽光発電を利用したLED照明も取り付けることが可能です。

フジストッカー
商品名 そなえアル蔵



防災・備蓄倉庫「フジストッカー」に、リデュース(減量)・リユース(再使用)・リサイクル(再資源)を実現させたオールアルミ製防災倉庫です。全てのフレーム構造材をアルミ化した環境配慮型防災倉庫で、スチール製倉庫のように溶接等で組み上げられていないので、解体や部材の分別が極めてスムーズに行えるといった、「リサイクルの仕組み」が商品に組み込まれています。

オフィスシリーズ
商品名 ユニスペースSK



コンパクト設計で移動・設置が簡単で連棟可能なユニットハウスです。壁パネルはサイズや機能が選択出来るので、お客様の用途に合わせて間取りを自由に変えられます。また、屋根と壁にはウレタンを注入した一体形成パネルを採用。

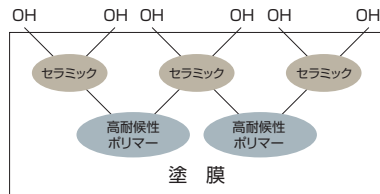
従来品よりも断熱性と遮音性がさらに良くなりました。(当社比)

● 研究開発トピックス

窓から夢をひろげ続けるため、環境に対応した安全で高品質な心をこめた商品を提供する、先端技術の研究と開発を推進しています。

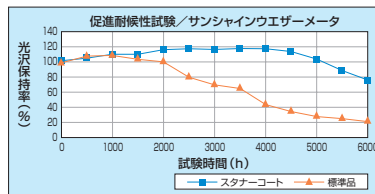
無機系塗装アルミ建材
商品名 CP4500

「CP4500」は、セラミックを主成分とした無機系塗料を使用したアルミニウム建材です。建物の外観を長期にわたり美しく保ちます。塗料は紫外線などによる劣化が少ない新耐候性ポリマーを使用しており、ふっ素塗装とほぼ同等の高耐候性を有しています。さらに、汚れ防止型でもあるため、排気ガス、煤煙、砂埃などに起因する雨すじ跡汚れが付着しにくく、付着しても雨水や水拭きなどで簡単に落とせ、耐汚染性にも優れています。



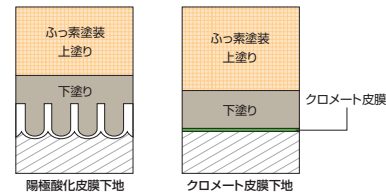
高耐候性電着塗装
商品名 スターナーコート

アルミニウム建材の代表的な表面処理である複合皮膜。酸化皮膜と塗膜を複合したアルミニウムの美しい意匠を表します。高耐候性つや消しクリア電着塗料「スターナーコート」はアクリル-メラミン樹脂系塗料を使用し、ラジカル補足機能をもたせた新モノマーを採用し、疎水性塗膜を形成させることにより、耐候性や耐食性などの品質を向上させています。特に耐候性は促進耐候性で標準品の2倍以上の高性能が得られています。



環境配慮型塗装システム
商品名 陽極酸化皮膜下地ふっ素塗装品

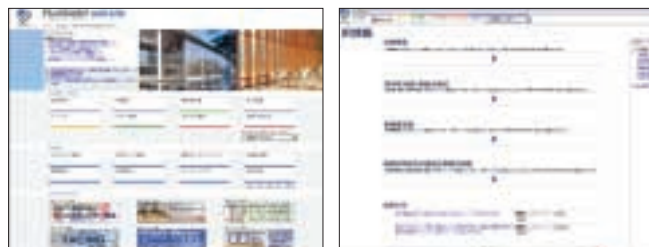
アルミニウム建材の着色塗膜ではクロメート処理が下地処理として一般に使用されています。このたび環境に配慮した技術として、陽極酸化皮膜を塗装下地として適用した塗装システムを開発しました。有害重金属を排除した「クロムフリー」を実現しています。第一段としてふっ素樹脂系塗装について標準仕様を設定し生産を開始しています。この塗装品の品質は、クロメート皮膜品と同等以上の優れた性能が得られています。



不二サッシ

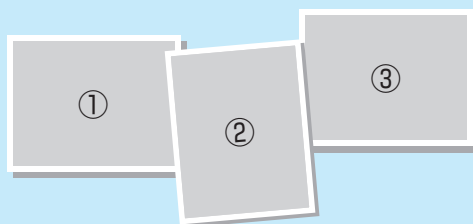
株主メモ	
決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月に開催
期末配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
その他の基準日	上記の他、必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵送物送付先) (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単 元 株 式 数	100株
公 告 の 方 法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL http://www.fujisash.co.jp/

ホームページをご利用ください。



ホームページアドレス <http://www.fujisash.co.jp/>

●表紙写真説明



①呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム)

所在地：広島県呉市

設計：(株)久米設計

施工：五洋建設(株)・(株)増岡組・大之木建設(株)共同企業体

②浜松町スクエア

所在地：東京都港区浜松町

設計：(株)東急設計コンサルタント・東急建設(株)・アーキテクトファイブ

施工：東急建設(株)

③八千代町役場

所在地：茨城県結城郡八千代町

設計：(株)梓設計

施工：鈴縫・高塚特定建設工事共同企業体

不二サッシ株式会社

〒211-0012

神奈川県川崎市中原区中丸子35番地4 Tel. (044) 422-1111